

活動名		団体名	特定非営利活動法人 ピピオ子どもセンター
子どもシェルターの運営		地域	広島県広島市
		代表者	理事長 鶴野 一郎
		支援金額	40万円
活動概要	<p>保護者等から虐待等を受けた子どもたちを受け入れるための子どものシェルターを運営し、居場所のない子どもたちに避難する場所を提供する。 シェルターでは、子どもたちに安心して食事がとれて、ゆっくり眠ることができる場を提供し、必要に応じて関係機関等とも連携し、子どもたちが次に進む方向を自ら見つけられる力を取り戻せるように、支援と見守りを行う。</p> <p>◆実施時期 2012年4月1日～2013年3月31日</p> <p>◆参加人数 平成24年度内の入居者7名</p> <p style="text-align: right;">参加総人員:7名</p>		



ピピオの家



「子どもの日記念イベント」の劇



JaSPCAN(日本子ども虐待防止学会)
 高知りょうま大会参加

◆実施に伴う効果

平成 23 年 4 月に「ピピオの家」を開所してから平成 25 年 3 月まで、延べ 20 名の子どもがピピオの家を利用した。入居者が途切れることはほとんどなく、定員のため、子どもの受入れを断念せざるを得ないこともあり、子どものシェルターのニーズの高さ、高齢児の居場所づくりのさらなる体制強化の必要性を痛感している。

平成 24 年度内の入居者は 7 名で、それぞれシェルターでの安心できる環境の中で生活をおくることができた。また、入居期間中に、退去後の一人暮らしに向けてアルバイトを経験したり、継続しながら退去できたりしたケースがあった。

◆苦勞した点

家庭環境が改善できて家庭に帰れる子どもは少なく、家庭に帰ることができない子どもたちについては就労先を探すなどしている。しかし、その数は限られており、また、仕事への定着がむずかしい子どもも少なくない状況にある。子どもたちの自立を支援していくためのさらなる体制の強化やノウハウの蓄積が必要である。

入居相談があっても、定員のため、入居を断ることが何度かあった。

◆今後の課題・発展の方向性

ピピオの家に入居した子どもたちの自立を支援するため、「スタートラインプロジェクト」を実施する(貴財団との連携)。

- ①被虐待児等の成長を支援するプログラム(被害回復、生活習慣の改善、自己肯定感の涵養、資格取得)
- ②スタッフの能力開発を支援するプログラム(講座・セミナー・研究会等の開催、ケース会議の充実、他機関の視察・他機関のスタッフとの交流)
- ③その他(広報活動の充実)

平成 25 年度も、平成 23 年度・24 年度に引き続き、ボランティアスタッフの募集・養成講座を開催し、ボランティアやシェルターなどに関心のある一般の方に参加を呼びかけていく予定である。

引き続き、男子用の自立援助ホームの設立を目指す。

◆活動を終えての感想・意見等

子どもシェルターのニーズの高さ、自立支援のための取組みをより充実させていくことの重要性を痛感している。